

平成30年6月5日

あきる野市議会議長 子 籠 敏 人 殿

福祉文教委員会
委員長 中村 のりひと

行政視察事務調査報告書

このことについて、下記により行政事務調査を実施したので、会議規則第111条の規定により報告します。

記

- 1 実施日 平成30年4月25日（水）から4月26日（木）まで
- 2 視察先 岡山県総社市、広島県呉市
- 3 調査名及び目的
岡山県総社市
・障がい者千人雇用事業について
広島県呉市
・おいしい減塩食で健康生活推進事業について
・フレイル対策事業について
- 4 参加者 中村のりひと（委員長）、中村一広（副委員長）、臼井 建、大久保昌代、奥秋利郎、堀江武史
- 5 欠席者 山根トミ江
- 6 視察内容 別紙のとおり

【視察日】	平成30年4月25日(水)
【視察場所】	総社市役所
【視察項目】	障がい者千人雇用事業について
【目的】	<p>当市と同程度の規模感である総社市の障がい者千人雇用の状況を知り、増加傾向にある様々な障がい者の雇用支援策につなげていきたいとの考えで、総社市を訪れ現状を伺った。</p>
【概要】	<p>総社市は全国屈指の福祉先駆都市を目指している。福祉課は障がい者千五百人雇用事業、ワンストップ権利擁護、生活困窮自立促進支援、障がい者施策(サービス)、引きこもり支援。こども課は子育て王国そうじゃ。健康医療課は健康そうじゃ21、高齢者プログラム、長寿介護課は地域包括ケアシステム、60歳からの人生設計と多岐にわたり保健福祉政策を実施している。平成20年9月にリーマンショックが起これ、市内で2,000人以上が職を失う。こんな時こそ支援すべきは障がい者ということで、平成23年9月から5カ年計画で障がい者千人雇用を開始した。平成23年4月で一般就労者数80人、福祉的就労者数100人の合計180人が、平成30年3月には一般就労者数600人、福祉的就労者数410人の合計1,010人となった。</p> <p>平成29年5月に就労1,000人を達成し、さらに雇用を推し進めるため平成29年11月20日に新たに「総社市障がい者千五百人雇用委員会」を設置し、1,500人の障がい者雇用を目指している。平成28年度一般会計決算額は</p>



2.71億円、障がい者千五百人雇用に係る経費は3億9839万円である。

【感想】

人口、予算規模が当市と比べてひと周り小さい
くらいの総社市で実践できるということは、
当市でも十分に同規模の障がい者雇用施策を実
行することはできると考える。視察時にも何度
も総社市の職員の方から説明があったが、市長



の想いが非常に強いそうである。直接市長のお話を伺った訳ではないが、事業
の内容が掲載されている web ページ

http://www.city.soja.okayama.jp/fukushi/shogaisha/senninkoyou/syuugaisya_koyou_toha.html

のインタビューを読むと、市長の想いがよく伝わる。他の分野の政策との連携
が非常にうまくいっており、いわゆる農福連携（農業と福祉）も進んでいる。
それ以上に素晴らしい取組と感じたのが、乗合タクシー「雪舟くん」の活用で
ある。この乗合タクシーは市内どこでも片道 200 円で通勤可能なのである。約
211k m²の面積を 200 円で移動できる。障がい者にとって困難な移動を他の課の
政策を活用するなど、当市でも参考にすべき活用方法だと感じた。障がい者
雇用と一口に言っても身体、知的、精神等さまざまな障害、程度の差もある。
雇用する側もさまざまな考えもある中では、仮に当市で取り入れてもすぐに効
果が出るかはわからない。しかしながら、小学校・中学校においても特別支援
学級の児童・生徒が増加傾向にある中では、就労期だけではなく乳幼児期・就
学期においてもさらなる支援も必要になるであろうし、65歳以上になっても
安心して暮らしている環境を作らねばならない。そういった観点からも、障が
い者の皆さんが納税者になり自立し安心して地域で暮らせる社会の実現を目指
している総社市のこの取組は、大いに参考にしていきたいと思う。

【視察日】	平成30年4月26日(木)
【視察場所】	呉市役所
【視察項目】	おいしい減塩食で健康生活推進事業について
【目的】	<p>健康寿命の高い当市であるが、年々医療費は増加している。単に財政的な面から医療費を削減するのではなく市民が健康で安心して暮らせる当市にして行くため、健康寿命をさらに伸ばすために、日本全国でも高齢化率トップクラスの呉市の事業からさまざまなことを学ぶため訪問した。</p>
【概要】	<p>(1) 市民全体「減塩いいね！キャンペーン」</p> <p>啓発からスタート。広くみなさんに知ってもらうために、イベント出展、一般健康教室、テレビなどを活用し実施している。</p> <p>(2) 減塩に特化した保健指導「カラダよろこぶ！減塩プログラム」</p> <p>市独自で特定健診の尿検診に推定食塩摂取量検査を追加実施。1日の推定食塩摂取量がわかる。40歳代から80歳代、世代によつての違いはない。痩せ、標準、肥満を比べると肥満な人ほど塩分摂取が多い。3年連続で特定健診を受けた人3,372人は摂取量が8.37g、8.20g、8.11gと下がってきている。ライフステージに応じた教室を実施(離乳期、学生対象、子育て世代、中高年層)し、パクパク離乳食教室(子育て世代)にも減塩を取り入れている。学生を対象とした減塩教室では、塩分量は低かった。これは、日頃運動をしているからと考えられる。この内容は文化祭で展示もした。減塩連絡会(保健所、保育所・</p>



幼稚園、教育委員会の3者で年1回)を開催している。

(3) 子どもから大人へ「減塩でおいしい!食育」

就学前の子たちには伝えにくい。一方、小学生以上には伝わる。学校給食で適塩(塩分量の見直して適塩給食)を実施。ソースの代わりにレモン汁を使用している。

【感想】

人口15万人以上の市で高齢化率が最も高い呉市は、課題先進市ということができる。地道な事業であるが、減塩生活をはじめようということから、自分の日々の食生活を見直すとともに、ライフステージに応じた減塩教室があることによって、一生涯に渡って減塩生活を実践することができる。これは何十年後に効果を表す非常に有効な事業に繋がると思う。見た目のインパクトとしては小さいものだが、市民の意識を大きく変えていくことに繋がる。

【視察日】	平成30年4月26日(木)
【視察場所】	呉市役所
【視察項目】	フレイル対策事業(介護予防の取組)について
【目的】	<p>今後さらに医学の発達によって寿命は延びると思われる。当市は都内の自治体では健康寿命の高い方であるが、さらなる高齢化社会に向けて、高齢化率30%超えである課題先進自治体 呉市の事業を参考にするため訪問した。</p>
【概要】	<p>同市は28年度に広島大学の研究事業によりチェックリストを用いて、「どの項目にチェックが入っている人が要介護に移行しやすいか」の解析を行った。その結果を踏まえて、必要に応じて介護予防・日常生活支援総合事業の申請や介護予防教室への優先利用へつなげている。事業には、筋力や口腔機能の維持向上、栄養改善のための教室として「筋力アップ教室(8か所)」「高齢者マシントレーニング教室(8か所)」「からだ元気アップ教室(13か所)」「健口歯ッピー教室(1か所)」があり、すべて無料である。また、各種サロン事業・認知症予防教室として、家に閉じこもりがちな高齢者等に対し介護予防や閉じこもり、認知症予防を目的とした健康教育、軽体操、レクリエーション等を行う「すこやかサロン(6か所)」のほか、各種事業が展開されている。</p> <p>とりわけ、平成30年度からの新たな取組として、リハビリテーション専門員の協力を得て地域における介護要望事業の充実を図る予定である。既存のサ</p>



ロンにおいて運動の正しい知識を伝達したり、週 1 回以上実施する筋力アップのための通いの場を増やすなどの活動が期待されている。さらに、重症化予防の取組として、「歯ッピースマイル65」を新たに展開している。まず、歯科医院での検診（65歳以上）において歯周病検診、パノラマ X 線健診（口の中全体を 1 枚の写真として撮影）を行い、歯の状態だけでなく、骨の中の異常などをチェックする。その後、医療機関への紹介、薬局で治療の継続確認、介護予防教室参加を促すなどへつなげている。このような取組を行い、健康寿命日本一のまち「呉」を目指している。

【感想】

呉市は高齢化率 34.3%（高齢者数 78,341 人／人口 228,636 人平成 29 年 9 月時点）で全国一である。あきる野市は 28.9%であるが、近い将来には呉市と同程度には到達することが見込まれ、日本で一番の高齢化率の自治体の高齢者施策を学ぶことは意義あることと思われる。



とりわけ、同市は健康寿命日本一のまちづくりを標榜しているため、健康づくりのための取組は大いに参考になる。あきる野市においてもさまざまな介護予防の取組を行っているが、呉市における 30 年からの新しい取組として、自宅から歩いて 15 分以内での地域アプローチとして、リハビリ専門員が地域へ足を運びそこで予防事業を展開している。これは、自宅から遠い場所にあるセンターでの事業やサロンでのこれまでの取組では利用者の継続が難しいことから考えられたものである。このような観点を持って当市の介護予防事業を見つめ直していくことが重要である。そして、「歯ッピースマイル65」では、歯周病が骨粗しょう症や認知症などにもつながることもあるため、口腔ケア不良が全身

に影響を及ぼすことを市民にしっかり伝え、そして、その対策に取り組んでいる。単なる健診だけで終わらず、健診後に介護予防教室への連続性を捉えていることは参考に値する。

昨今、介護予防対策としては、フレイル対策の重要性がうたわれている。フレイルとは、「健康」と「要介護」の間の状態である。今までは健康だったのに年と共に活動能力がじわじわと低下していくが、そこで諦めると「要介護」になるが、対策を施して「健康」に戻ることができるのが「フレイル」である。このフレイルのときに健康へ戻れる取組をしっかりと考え、あきる野市民の健康増進に寄与する施策を検討していきたい。